

去る令和4年2月14日に開催された第137回組合会において
令和3年度決算見込みの報告及び令和4年度予算等を承認・可決しました。

令和4年度の保険料については、医療費が大幅に増加することが見込まれるため、「医療保険料」を引き上げることになりました。

後期高齢者支援金保険料、介護保険料の引き上げについてもご理解ください。
(各保険料の詳細は次頁をご参照ください)

新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった令和2年度におきましては、外来・歯科の受診控え等により、医療費が大幅に減少した影響が大きく、令和3年度は「医療保険料」をはじめとするすべての保険料を据え置きました。

しかしながら、令和3年度においては受診控えの反動とともに、新型コロナウイルス感染症に係る入院等の治療費や高額薬剤の保険適用等により医療費が急増しており、単年度収支で約3億円の赤字となる見込みとなりました。

令和4年度も医療費の増加傾向は続く見込まれ、歳入面では、被保険者減少による保険料収入の減少、国からの補助金の減少等による財源不足を補う必要が生じたために、**令和4年度につきましては「医療保険料」を改定することといたしました。**

また、被保険者全員が支払う「後期高齢者支援金保険料」及び40歳から64歳までの被保険者が支払う「介護保険料」については、負担額を一人当たりで按分して算出した結果、それぞれ改定することになりました。

令和4年度の予算額は、総額 103 億 73 万 9 千円

前年度の補正予算と比較して、**1.24%減、1億2千951万6千円の減少**となっています。

当組合の被保険者数は減少傾向にあり、令和3年度の平均被保険者数は2万4千890人となる見込みです。今後も被保険者数の減少が予想されるため、令和4年度予算では、前年度対比で、772人マイナスの2万4千118人となりました。

歳出面では、令和3年度は前年度の受診控えの反動や新型コロナウイルス感染症で入院治療された方の高額な医療費もあって、医療費が大幅に増加する見込みです。また、これに併せて、高額療養費や療養費等を含めた「保険給付費」が令和2年度より約4億3千万円増加する見込みとなっております。令和4年度予算においても、高額薬剤の保険適用等による医療費の増大を考慮し、一人当たりの医療費を対前年度比約6.5%増と見込んでおります。また、社会保険診療報酬支払基金へ支払う「後期高齢者支援金等」の予算額は、14億7千406万円で、国の算定した加入者数より当組合の加入者数が大幅に少なかった影響で、前年度予算額より約9千400万円の減少となりましたが、国からの補助金や被保険者数を勘案した結果、一人当たり負担額は100円の増となりました。

さらに、「介護納付金」の予算額は8億9千270万円となり、国からの補助金や40歳から64歳の第2号被保険者の人数を勘案した結果、一人当たり負担額は200円の増となりました。

歳入面では、国庫支出金が、令和4年度は医療費等にかかる定率の補助率が14%のままとなりますが、補助率削減による激変緩和措置としての補助金が交付されなくなった影響が大きく、前年度決算見込みと比べ約1億6千万円減の10億6千626万円となりました。

令和4年度においても、歳入面では国からの補助金削減による収入減、歳出面では「療養給付費」(医療費)等の大幅な増加による支出増が予測され、組合財政が厳しくなるため、やむを得ず「医療保険料」を引き上げることといたしました。また、国に抛出するために徴収している「後期高齢者支援金保険料」と「介護保険料」についても被保険者数に按分したうえで、引き上げることといたしました。なお、「後期高齢者組合員保険料」につきましては、現行の月額2千円のまま据え置くことといたしました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度 予算額内訳

(単位:千円)

